

# 全国ネット通信



Japan Network for Climate Change Actions NEWSPAPER



### Index

※内の数字は  
ページを表しています

- 1 理事長就任のご挨拶
- 2 脱炭素チャレンジカップ
- 3 環境マークプログラム販売開始
- 4 CO<sub>2</sub>排出削減量推計ツールのご案内
- 4 第15回社員総会
- 4 うちエコ診断資格試験申込開始
- 5 エコライフ・フェア2019
- 5 地球温暖化防止活動環境大臣表彰
- 5 地球温暖化防止活動促進事業
- 6 スタッフ紹介
- 6 プンちゃんのひとりごと
- 6 櫻田彩子のミニコラム

## 理事長就任のご挨拶

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット 理事長 高田 研  
(都留文科大学 特任教授)

この度、長谷川先生からバトンを引き継ぎました。地球温暖化という未来世代に残してはいけない大きな課題にどのように向き合うのか、全国59の地域センターの皆さんと共に考えてアウトカム(成果)を積み上げていきたいと思っております。

私は2004年に開設されましたストップおんだん館において、プログラムのアドバイザーに就任以来、現在に至るまで全体の研修計画立案やプログラム開発に関わってまいりました。実施した研修会において全国各地での取り組みを直接聞き、課題は多少なりとも把握しているつもりです。

1990年発足の日本環境教育学会は今年で30年になります。始めた頃は「環境教育」という言葉もまだ一般に知られていなかった時代でした。2005年から始まった国連ESDの10年は、持続可能性という広い視座で考える枠組みを提示しました。しかし、その言葉も十分に定着しないまま2014年を迎えたというのが実感です。

ところが先日、地元の銀行窓口に行きますと女性たちの胸元にSDGsのバッジがつけられています。2016年から始まったSDGsは「教育」だけでは解決できないこの問題に対して、経済界も巻き込んだ動きがここまで可視できるようになって来ました。

この追い風を受けて、地域産業に新たなステークスホルダーを求め、地域の持続可能性に寄与することが課題です。地方での取り組みの潤滑油としての全国センターのあり方を考えて行きたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。





# 低炭素杯2019開催報告



2月8日(金)にカルッツかわさき(神奈川県川崎市)で開催した「低炭素杯2019」は、全国1,425団体の中から選ばれた4部門(ジュニア・キッズ、学生、市民、企業・自治体)28団体のファイナリストが趣向を凝らしたプレゼンテーション発表を行いました。

その結果、高橋康夫環境省地球審議官より環境大臣賞が、塩見みづ枝総合教育政策局社会教育振興総括官より文部科学大臣賞が授与されました。また、ステージプログラムでは、テレビ等のメディアでもご活躍の生き物の先生!五箇公一さん(国立環境研究所)にご講演をいただきました。

環境大臣賞  
グランプリ

## 環境大臣賞グランプリインタビュー 姫島エコツーリズム推進協議会(大分県)

取組概要

二次交通の無い姫島において、仕事や観光で訪れる来島者が気軽にエコで島内を移動出来るよう超小型電気自動車の貸出しを行い、地元の島民や事業者にとってもエコで新たな移動手段となるような利用実証を行っています。また青パパイヤの栽培を通して二酸化炭素の吸収と特産品づくりにも挑戦、今年度からは太陽光発電による電力で超小型電気自動車の充電と事務所の電気を補い、エネルギーの地産地消に取り組んでいます。



▲ 広瀬勝貞  
大分県知事を  
表敬訪問  
しました



### Q. グランプリを受賞された感想はいかがですか？

出場されていた皆様の取り組みはどれも素晴らしく、グランプリを受賞できたことを私たちが一番驚いています。これまでコツコツと積み上げてきたことを評価していただき、大変光栄ですし、ご協力いただいた方たちへの恩返しと、今後の励みになりました。

### Q. 受賞後の反響はいかがですか？

何より姫島村の皆さんと、この取り組みに参画していただいた関係者の方々がこの受賞を大変喜んでくれたことが嬉しかったです。大分県では初の受賞だったこともあり、メディアにたくさん取り上げていただいたり、視察にもたくさんの方が来島されました。

### Q. 今後どのような展開をお考えですか？

低炭素社会づくりを通して地域を元気にできるこの取り組みを、同じような課題を抱える地域にも波及できるように、さらにブラッシュアップを重ねていき、地域の方たちと共に、さらに前進していけるよう努力をしていきたいと思ひます。



「低炭素杯」は「脱炭素チャレンジカップ」に変わります！

## 脱炭素チャレンジカップ2020エントリー募集開始！

これまで皆様のご支援をいただき開催してまいりました「低炭素杯」は、気候変動対策をより加速化するために名称を改め、2020年2月に「脱炭素チャレンジカップ」として新たなスタートを切ることとなりました。

これまでの9年間の実績を踏まえつつ、本大会を通して、地域活動の活性化とネットワークの構築が促進されることによって、あらゆる主体が連携し、脱炭素な地域づくりへの実現化が図られるものと期待します。

10回目を迎える「脱炭素チャレンジカップ2020」は、会場を「伊藤謝恩ホール(東京都文京区本郷7-3-1 東京大学キャンパス内)」へ移し、開催いたします。

エントリー締切: 9月9日(月) 15時



多種多様な団体(学校・企業・自治体・NPO等)が、日々取り組んでいる地球温暖化防止につながる活動をエントリーし、最終選考で大会の舞台から自身の活動を発表することによって、取組のノウハウや情報を互いに共有し、さらなる活動に向けて連携や意欲を創出する「場」となることを目指し、前身の低炭素杯を含めて2011年から開催している全国大会です。





小学生への体験・参加型プログラム

## 環境マークプログラムツールセット販売開始！

全国ネットでは、さまざまな商品・サービスについて「環境マーク」を、子ども達が力を合わせて探してくることを通して、身のまわりに環境に関するマークがたくさんあることに気づき、共有するプログラム「環境マークプログラム“力を合わせて環境マークを集めよう！”」のセット販売をスタートしました！

価格は、25名分セットで消費税・送料込みで9,000円。夏休み等イベントに使うもよし、子ども達に地球温暖化や環境問題について伝えている方々、企業や団体のSDGsコンテンツにヒントを得るための研修教材にしてもよし、使い勝手の良いプログラムです。

ぜひ、ご購入のうえ、ご活用ください！

全国ネット 環境マークプログラム

検索



25名分<sup>(※)</sup> セット価格  
 (※)…子ども20名+指導員5名分  
 360円/一人あたり

9,000円  
 (消費税・送料込み)

### セット内容

(子ども20名+指導員5名分)

- |                           |                                |
|---------------------------|--------------------------------|
| ①環境マークポスター (A2 サイズ) 1枚    | ④マークカード低学年向け (A6 サイズ) 250枚     |
| ②環境マークずかん (A5 サイズ冊子) 25部  | ⑤学年別自由研究の進め方 (B4 サイズ 4枚セット) 5部 |
| ③トライアルリーフレット (A5 サイズ) 25枚 | ⑥使い方の手引き (A4 サイズ) 5部           |

※2019年10月の消費税増税に伴い、価格を変更することがございますので予めご了承ください。

※プログラムの使い方講座等にてその場でご購入の方には、送料分を値引きさせていただきます、8,000円といたします。

実施事例

### スーパーマーケットでマーク探し！



施設内や地域のスーパー、コンビニなど普段の生活で身近な「町」を探検しながら、力を合わせて環境マーク探し。地域の方やスーパーなどのお店の方のご協力をいただきながら、地域における社会教育・アクティブ教育の一環として実施できました！という声もいただいています。地域とつながるきっかけにも最適です。

まだまだ他にも使い方はたくさん！ 実施事例は「手引き」にも紹介しています！

### SDGs プログラムにも！



このプログラムは、国連サミットにおいて採択されたSDGs=Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)を考えるきっかけにもつながります。「13.気候変動に具体的な対策を」の目標達成のきっかけはもちろん、「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「12.つくる責任つかう責任(持続可能な消費と生産のパターンを確保する)」「14.海の豊かさを守ろう」や「15.陸の豊かさを守ろう」にもつながります。プログラムを通して、知識のみならず、自分で調べ、チームで共有し、意見交換・発表を通して考えるチカラやプレゼン能力も身につきます。

購入申込み・詳細はこちら

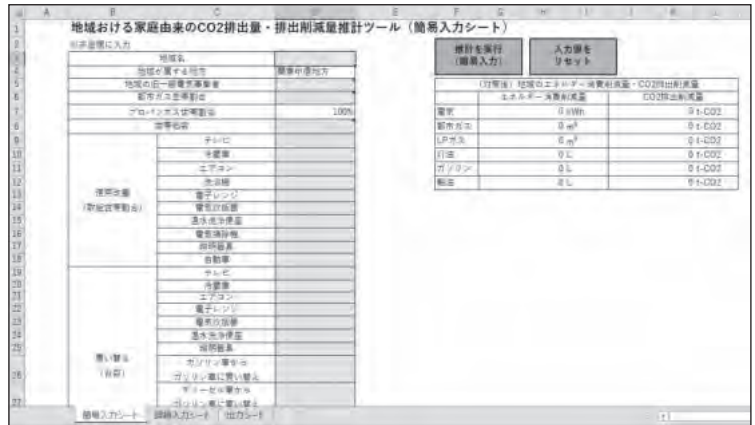
<https://www.zenkoku-net.org/gakudo/index.php>

## 家庭のCO<sub>2</sub>排出削減量を推計しませんか!?

「温暖化対策を企画・提案する際に、その対策を実施することによるCO<sub>2</sub>排出削減量を知りたい。」「市民へ普及啓発をする際に、CO<sub>2</sub>排出削減量を根拠に説明したい。」といったことはありませんか？

このような場での活用を想定した、温暖化対策に資するCO<sub>2</sub>排出削減量推計ツールを、全国センターのウェブサイトで公開しています。推計ツールのポイントは「この地域において省エネ行動を推進すると、CO<sub>2</sub>排出量をx(t-CO<sub>2</sub>)削減できる可能性がある。」といったことが、簡単にわかることです。

公開して間もないにも関わらず、想定していたよりも多くの反響をいただいています。以下のURLより自由にダウンロードできますので、ぜひお試しください。



推計ツールは全国センター (JCCCA) ウェブサイトにて公開中！

[https://www.jccca.org/home\\_section/suiketool.html](https://www.jccca.org/home_section/suiketool.html)

推計ツールに関するご意見等は [jigyo@jccca.org](mailto:jigyo@jccca.org) までお送りください。

## 第15回社員総会（令和元年度定時社員総会）報告



令和元年6月24日(月)、日本教育会館において、正会員45団体の参加を得て、第15回社員総会を開催しました。ご来賓として環境省 地球温暖化対策課 国民生活対策室長 磯辺信治様よりご挨拶をいただきました。その後、議事に入り、第1号議案から第4号議案まで活発な議論が行われ、全ての議案が承認されました。

役員の任期満了などに伴い、今回、役員の改選が行われましたが、当法人の理事長として9年間当法人を牽引して頂いた長谷川公一理事長が退任され、同日開催の第63回理事会において、都留文科大学特任教授の高田研氏が新理事長として選任されました。また、秋元智子専務理事、及び久保田学理事(北海道センター)は再任されました。新理事としては、木原浩貴氏(京都府センター)、福岡真理子氏(秋田市センター)、葭矢崇司氏(島根県センター)の3名が就任し、新たな監事には、田邊裕正氏(熊本県センター)、宮島和雄氏(長野県環境保全協会専務理事)の2名が就任いたしました。

## うちエコ診断資格試験の申込開始!



環境省の公的資格である、「うちエコ診断士」「うちエコ相談員」を認定する「うちエコ診断資格試験」を今年度も実施します。

今回行われる第6回目のうちエコ診断資格試験では、令和の時代となり、一次試験を筆記試験からパソコンで受験するCBT (Computer-Based Testing) に変更しました。これにより、一次試験は試験期間中であれば、全国47都道府県約150カ所にある会場で、受験者が都合の良い日時に受験できるようになります。

また、本年度の資格試験に対応した「うちエコ診断資格試験公式テキスト(改訂5版)」も合わせて発売を開始します。地球温暖化問題の基本から、気候変動の将来予測や影響、家庭の省エネ対策やうちエコ診断の方法について総合的に学ぶことができるテキストです。なお、同テキストには、平成30年度(第5回)うちエコ診断資格試験筆記試験問題も付録としてしているので、資格試験対策として必要な知識をより体系的に身につけることができます。



**受験申込期間：令和元年7月16日(火)から8月6日(火)17時まで**

詳しくはこちら <https://www.uchieco-shindan.jp/shindan/>  
資格試験チラシのダウンロードはこちらから <https://www.uchieco-shindan.jp/archives/2735>



## エコライフ・フェア2019に出展しました！

エコライフ・フェア2019が6月1日・2日の2日間、代々木公園にて開催されました。全国ネットは、幼児・小学生とファミリー層向けに、ガチャガチャを使ったCOOL CHOICE体験プログラムやかきた大会など、気候変動に興味や関心を抱き、考えてもらうきっかけを提供することを目的にブース出展を行いました。

1週間前の土日は北海道で最高気温39°Cを超える猛暑日を記録、東京でもどうなることやら・・・とヒヤヒヤしましたが、フェア当日は程よい曇り空と風が吹き抜け、絶好のイベント日和となりました。多くの親子連れをはじめ、カップル、子どもたちがブースを訪れました。

今年のメインプログラムは、「COOL CHOICE研究所」。入り口でガチャガチャを回して、カプセルから出てきた“指令書”にしたがってブース内の隠れた文字を探したり、良い点や悪い点などアイデアを発見するミッションに挑戦しました。子どもも大人も真剣な眼差し！「宅配便不在票、こうして写真で見ると労力、紙、ガソリンの3無駄があるなと思いました。」「サーキュレーターとエアコンを併用して設定温度を上げていきたい。」「レンタル自転車使ってみたい。カーシェアは時々使っています。」といったアイデアやご意見をいただきました。

1日には原田義昭環境大臣にも当ブースを視察していただき、子ども達が参加体験する様子を見ていただきました。



全国ネットブースの様子



原田環境大臣視察の様子



まずはガチャガチャを回して・・・



指令に挑戦！子どもたちは真剣な眼差し



### 令和元年度地球温暖化防止活動

## 環境大臣表彰応募受付中



地球温暖化防止に顕著な功績のあった個人・団体を表彰することにより、受賞者における一層の取り組みの推進を促すとともに、国民・事業者等に対する地球温暖化対策の普及の促進を図ることを目的として実施している環境省主催の表彰制度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」の募集が、今年度もスタートしています。

全国ネット通信2018冬号でもお伝えした通り、昨年度も地球温暖化防止活動推進員の皆さんをはじめとした地域で活躍する「地域の担い手」の方々がたくさん受賞されました。

地球温暖化防止活動環境大臣表彰は、個人でも団体でも応募できます。自薦他薦も問いません。また、今年度も表彰式・受賞者フォーラム、情報交流会において、受賞者の交流の場を展開する予定です！

長年、地域の地球温暖化防止に取り組まれている推進員さん、地域のグループの方々のアツイご応募をお待ちしております。

**応募締切：7月31日(水)**

詳細は…

令和元年度環境大臣表彰

検索



### 地域における地球温暖化防止活動促進事業

現在、都道府県市首長より59の地域地球温暖化防止活動推進センターが指定されています。今年度はその内の57センターが環境省の補助金「地域における地球温暖化防止活動促進事業」の対象となり、事業が開始されました。新たに熊本市センターに指定された一般社団法人熊本環境革新支援センターも、今年度より本補助事業に参加され、事務局には私、鈴木が加わりました！

#### 令和時代の地域における地球温暖化防止活動促進事業

今年度は、本補助事業を通じて各地域センターまたは各地域の今後数年かけてなりたい姿をイメージし、地域だからこそできる取り組みを考えていきたいですね。それも、ムーンショット的に！例えば、地産地消を循環させたい、儲かる仕組みをつくりたい、未来の担い手を育てたい、研究者と一緒に実証事業をしたい、ネットワークを活用して相乗効果を生み出したい、AI・IoTを活用して地域の価値や魅力を高めたいなど。各地域センターの活動においても、「地域循環共生圏」の創出への意識が高まり、地域ならではの方法を模索されているのではないのでしょうか。

平成から令和に変わった今年は、新たな時代を考えるよい契機。地球温暖化防止活動促進事業に係る各地域センターの活動が、ますます社会に根付く取り組みになっていけたらと思います。



## ばんちゃんのひとりごと

生物多様性ってなあに？

私たち人間は、地球という大きな生態系の一員であり、私たちの暮らしは、多様な生きものが関わり合う生態系から得られる恵みによって支えられています。

生物多様性を守り、持続的に利用していくことは、私たちだけでなく、将来の世代のためにも必要です。

今回は、私が今まで、多くの時間を共にしてきたゾウについてのひとりごとです。



### ゾウってどんな動物？



分類：大きく分けると、アジアゾウとアフリカゾウ  
体長：3~5m  
体重：3~7t  
食べ物：草、木の葉、果物など  
100~300kg/1日  
寿命：50~70歳  
初来日：1408年

鼻：骨は無く、10万以上の異なる筋肉。先には上下2つの指状の突起があり、小豆をつかむ事ができる。

耳：人間が聞くことができない20Hz以下の低周波を聞くことができる。

現在、野生ゾウは、森林伐採による生息域の減少や、象牙の密猟が横行し、絶滅が危惧されています。また、異常気象の多発は地球温暖化の影響を受けていると考えられ、ゾウについても森林や草原だった場所が、干ばつなどで広く砂漠化することで、絶滅へのスピードが、さらに加速されるのではないかとされています。

このように地球温暖化は、自然生態系の一員である野生動物にも、大きな影響を及ぼしています。

これからも人間とゾウが共存できる世界でありますように。

企画・広報グループ 高橋文彦

## スタッフ紹介

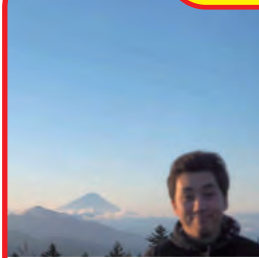
### 事業グループ 岩崎慶太

Iwasaki Keita

生き物や植物など、自然好きな32歳。

仕事では効果的に行動変容を促す方法などについて、調査研究しています。

息子(4歳)にも自然好きになってもらいたいのですが、なかなか行動変容を促せないのが悩み。



SDGsのロゴマーク、いろいろな場面で目にする機会が増えてきました。ピン

バッチを胸につけている方もよく見かけます。私も、特に13番「気候変動に具体的な対策を」の達成に寄与していきたい！という強い気持ち(?)をもって日々業務に励んでいます。

この原稿を書いているふと、「SDGsってどれくらい達成できているんだろう」と思い、調べてみました。海外の民間団体が「2018 SDG Index and Dashboards」の中で、国連加盟国のSDGsの達成と進捗状況を公開しており、これによると、日本は15位！かなり上位に感じますが、前年の11位から順位を落としています。各目標の達成度合いが4段階の色分けで示されており、4番(質の高い教育をみんなに)は最も良い緑ですが、気になる13番は最も悪い赤(エネルギー由来のCO2排出量が大きいことなどが影響しているよう)。さらに、気候変動対策への取り組みは、前年度よりも後退している、という評価まで受けてしまっているようです・・・

この報告が出されたのが2018年の7月。全国ネット通信が発行される頃には、最新版が公開されているかもしれません。日本におけるSDGs達成状況、特に13番について、好転していることを願うばかりです・・・



▲日本のSDGsの評価(2018 SDG Index and Dashboards.p248より抜粋)

### エコアナウンサー

## 櫻田彩子の ミニコラム

プラスチック問題解決に向け、国内外で削減が求められています。

5月30日ごみゼロの日に、海ごみゼロウィーク・キックオフイベントの司会をさせていただきました。会場の湘南江の島ビーチには原田環境大臣もお越しになり、参加者の皆さんと海ごみ拾いをなさいました。住民やNPO海さくら、地域のセブンイレブンやマクドナルドのお店の方々等が率先して行動なさっていました。

海ごみを実際拾うと、気付くことがあります。個包装のお菓子の袋や、パン等の袋の口を閉じる針金入りのビニールをいくつも拾いました。また驚いたのは、砂浜の砂と区別がつかないくらい小さくなった色とりどりのプラスチックが多いこと、劣化したプラ袋は紙のようにカサカサして手で触るとほろほろと崩れること。これは容易にマイクロプラスチックになるだろうと想像出来ました。

私たちに利便性をもたらしていたプラスチック製品の使い方やリサイクル方法、減らし方を個人も自分の生活の中で考えることが重要だと痛感しました。季節は夏、海や川への行楽は、海ごみについて家族友人で話す良い機会ですね。

### 櫻田彩子

#### プロフィール

Sakurada Ayako Profile

宮城県出身のエコアナウンサー。

テレビ朝日「じゅん

散歩」レポーター

ほか、「低炭素杯」

の司会など。

全国ネット

賛助会員。



▲マクドナルドさんの顔看板!

触ると崩れる▶ プラ袋



### 表紙の写真：エコライフ・フェアの様子

昨年のエコライフ・フェアでも好評だった「観天望気かるた」を今年も実施。JCCCAの貸出ツールでも人気の教材。子ども達の「本気スライディング札取り」の摩擦で敷物に穴があく白熱の対戦でした!

### 編集後記

令和最初の全国ネット通信は、表紙はもちろん、新コーナーも交えてデザイナー新で制作しました。同じタイミングで高田新理事長の誕生、低炭素杯は脱炭素チャレンジカップへと変わり、そして、全国ネットは来年度設立10周年を迎えます。

この仕事に長く関わらせていただいていると様々な思い出が蘇ります。この経験をムグにせず、今後の仕事に活かしていきたいと思えます!新しくなった全国ネット通信に対するご意見を、お待ちしております!  
(企画・広報グループ 井原 妙)

### 地球温暖化防止全国ネット通信

第34号 2019年7月号

【編集・発行】

一般社団法人地球温暖化防止全国ネット(JNCCA)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3

第一アミビル4階

TEL: 03-6273-7785 FAX: 03-5280-8100

<https://www.zenkoku-net.org/>



一般社団法人地球温暖化防止全国ネットの活動をサポートしてください!

年会費：個人会員1口 5,000円  
団体会員1口 20,000円

